

21世紀

日本怪異ガイド

100



朝里樹

イラスト裏逆どら



これぞ
ニュー・エイジ
最新の

くねくね

コトリバコ

アマビエ

きさらぎ駅

ヒップホップババア

リョウメンスクナ:

怪異・妖怪・
オカルト界
のベストセラー

日本現代
怪異事典

の著者が精選!!

百鬼夜行!

21世紀に新生した100種類の怪異を、
すべてイラスト付きで紹介!

21世紀日本怪異ガイド100

朝里樹

イラスト＝裏逆どら

星海社

188



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

世界が二一世紀という新たな時代を迎え、早くも二〇年が経ちました。

手塚治虫の『鉄腕アトム』やスタンリー・キューブリックの『2001年宇宙の旅』、円谷プロの『ウルトラマンティガ』や続編の『ウルトラマンダイナ』、ロバート・ゼメキスの『バック・トゥ・ザ・フューチャー PART2』など、過去の名作SFが舞台に設定した時代を既に通過していると考え、遙か未来に來たようにも思えます。

しかし一九九〇年代から現在までの時間は、緩やかに繋がっている感覚を持っている人がほとんどでしょう。実際にこれらは地続きの時代であり、世紀が変わったからといって突然大きな変化が起きる、というものではないのだから仕方がないことです。

そうはいっても、技術はこの二〇年で大きく進歩しました。特にパソコンや携帯電話などの機器はどんどん進化し、社会生活に変化をもたらしたかと思えます。

その一方で、遙か昔から伝えられてきた怪異や妖怪といった現象・存在は、現代も続々

と現れています。科学技術が進歩したこの二一世紀においてもそれは変わりません。むしろWEBサイトに電子メールにSNSに、とインターネットを経由して出現するなど、科学の進歩に合わせて怪異・妖怪たちも活躍の場を増やしています。

本書は、そんな二一世紀を舞台に語られた怪異・妖怪たちの中から、一〇〇種類を集めて紹介・解説・考察することを目的としています。いわば二一世紀の百物語となりましょうか。

今世紀はまだ五分の一しか経過していませんが、その二〇年間で様々な個性豊かな怪異・妖怪たちが語られました。その中には今までにない新しいものもあれば、かつて語られてきた怪異・妖怪たちの要素の多くを引き継ぎ、現代を舞台に語られたものもあります。

本書では、なるべくそうした存在の伝承が実際にあったり、それらに遭遇・体験した人物がいるものとして考え、過去の伝承や伝説などの記録との関連を考えてみたり、その名前や性質、特徴がどのような意味を持つのか探ってみたりするという形で考察しました。

しかし、現代、特にインターネットで語られた話は、その出生が個人の創作である可能性も高いです。実際に創作であることが判明しているものもあります。

もし創作であることを前提とする場合には、考察部分についてはこの話はこういった伝

承や伝説などをヒントにして考えたのではないか、という形で読んでいただければ幸いです。

いずれにせよ、どのような形で本書を楽しんでいただくかは、読者の皆様の自由です。
ただこの本が二一世紀に生まれた怪異・妖怪たちの魅力を一人でも多くの方に伝えられたなら幸いです。

目次

はじめに 3

N^o.001-020

後悔の木箱 12

ささろさん 14

鮫島事件 16

くねくね 18

ひきこさん 20

吉原千恵子 22

ツナカユリコ 24

おじゃま道草 26

怪人アンサー 28

カン、カン 30

さとるくん 32

鏡の中のナナちゃん 34

山の測量 36

ヒサルキ 38

まっかつかさ 40

ヨウコウ 42

オラガンさん 44

夢婆 46

ナタデナタ 48

ロア 50

No.021-040

きさらぎ駅	54
トミノの地獄	56
コトリバコ	58
おくりぼっこ	60
ばりばり	62
時空のおっさん	64
リョウメンスクナ	66
かんひも	68
なにか	70
海からやってくるモノ	72

column1

私の怪異・妖怪収集方法	74
異世界に行く方法	78
巨頭オ	80
リンフォン	82
ダッガゴドン	84
ミツチエル嬢	86
空亡	88
ヤマノケ	90
裏S区の悪霊	92
命を削る人形	94
ひとりかくれんぼ	96

No.041-060

幽霊だけど何か質問 ある？	100
ましこさん	102
ヒップホップババア	104
ごみこさん	106
寺生まれのTさん	108
転んだら死んでしまう村	110
邪視	112
帝国陸軍第二六号井戸の 怪物	114
月の宮駅	116

八尺様……………118

column 2

ネットにおける怖い話の

語られる場の変遷……………120

鬼門を開ける方法……………124

アクロバティックサラサラ……………126

サンヌキカノ……………128

禁后……………130

姦姦蛇螺……………132

迫りくるモノ……………134

サンユキサマ……………136

ミヤウチ様……………138

九死霊門……………140

リゾートバイトの

化け物……………142

No.061-080

リアルが悪霊……………146

悪魔のメルヘンカルタ……………148

シンノケ……………150

遺言ビデオ……………152

おいさん……………154

フレンジルシュターデン現象……………156

仮母女……………158

あまめ……………160

山けらし様……………162

column 3

二〇〇一年～二〇一〇年の
ネット上における「怖い話」……………164

でどでんこめんさん……………168

夢の女……………170

渦人形……………172

AIババア……………174

キャツシャ……………176

あやこさんの木……………178

空き家の獣……………180

ヒギョウさま……………182

№.081-100

フィンガーさん	184
アケミちゃん	186
禍垂	188
イケモ様	192
U先生	194
お狐さんの駅	196
ぷるぷるさん	198
ゴギョウ様	200

うたて沼	202
クロカミサマ	204
ケイコさん	206
センジュさん	208
LINEわらし	210
column4	
二〇二一年〜二〇二〇年の ネット上における「怖い話」	212
まるまる様	216
十和田湖の龍神	218
カゴカキ	220

ゾルタクスゼイアン	222
囁く声と黒い影	224
コワモテ様	226
肉	228
トラ	230
黒長さん	232
アマビエ	234
おわりに	237



きさらぎ

kisaragi





No.

001

|

020

後悔の木箱

その箱を開けてはならない

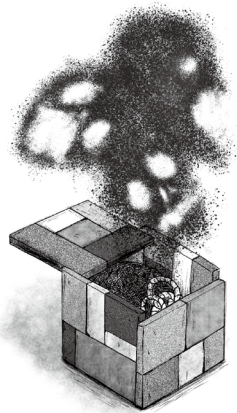
古びた木箱の正体

二〇〇一年一月二十九日、2ちゃんねる（現

5ちゃんねる）の「死ぬ程洒落にならない怖い話を集めてみない？ 4」スレッドに、「後悔」と名付けられた話が投稿された。

ある男性が部下を集めて飲み会を開いたところ、一人の部下が父親から貰ったというリングがひとつ入るほどの大きさの、ぼろぼろの木箱を取り出して見せてきた。

これはルービックキューブみたいに木目を揃えるように動かすと開く、という奇妙な仕掛けのある箱で、戦前からあり、戦後の焼け跡で拾われたものだという。



男性はそれを見てなんともいえない悪寒^{おかん}を感じ、後日、それを開けない方がいいと忠告したが、その部下は聞かずに開けてしまった。

箱の中に入っていたのは「天皇ノタメ 名誉の死ヲタテエテ」と記されたぼろぼろの布袋で、さらにその中身は大量の爪と髪の毛の束だったという。

この直後から、彼らに怪異が降りかかった。

まず箱を開けた直後に撮られた集合写真が、変色する、数えきれないほどの黄色い手が纏わりついているなどの現象が起きた。

男性とその部下たちは写真を見て、急いで寺に持って行ったところ、住職にはその写真を供養しても霊の怒りは鎮まらない、木箱を持ってくればそれを供養する、と言われた。

降りかかる箱の呪い しかし箱を開けた部下は、その日の帰り道に事故に遭って体を両断されて死亡した。

また、箱を住職に持って行ったところ、この箱は怨念そのものであり、もはや人のものではなくなっている、供養するのに長い時間がかかるという。

そのため男性らは自分たちで読経を覚え、なんとか怨念を鎮めようと試みるが、その甲斐なく様々な災いが数年の時を置いて彼らに降りかかり、一人ずつ命を落として行った。

最後に残ったのがこの話を投稿した男性であったが、彼もまた頻繁に激しい動悸に襲われるようになり、夢に死んだ部下たちが出てくるようになったと語る。

そして最後に、自分に憑いている霊を鎮める手助けをす
ると思つて、手を合わせて「南無妙法蓮華經」と唱えてほ
しいと頼み、話は終わる。

天皇ノタメ 名譽の死ヲタエテ 元々この話は WEB サイト

「AlphaWeb こわい話」にて、二〇〇〇年一月二十九日に「後悔」と題されて投稿されたもの。同じく呪物としての木箱であるコトリバコとの類似性が語られることがあるが、こちらの方が初出は早い。

この木箱は戦前からあると語られているが、「天皇ノタメ名譽の死ヲタエテ」と書かれていたことや、戦争の焼け跡から見つかった、という話から見るに、少なくとも箱の中身は天皇のために死ぬことを名譽とされた第二次世界大戦中に作られたものではないかと予想される。戦死者の髪や爪を入れたのか、それとも生きた人間を生贄にしたのかは不明だが、怨霊と化しているところを見るに、納得しての死ではなかったのだろう。

ちゅちゅん

子どもにだけ見えるお化けたち



お風呂に現れたささろさん

二〇〇一年四月一九日、2ちゃん

ねるオカルト板に立てられた「ほんのりと怖い話スレ」にて、子どもにだけ見えるお化けの話が語られた。

ある男性が風呂で髪を洗っていると、人の気配がした。しかしよくあることなので放っておいて風呂から出たところ、寝る時になって娘が「パパ、ささろさんとお風呂入ってたね」と言ったという。

怖いお化け、ミヤザキ

同スレッドではこの話を受け、「ミヤ

ザキ」なるお化けについての話も投稿された。

宮崎勤^{みやざきつとむ}事件、すなわち「東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件」に^わ沸き返っていた頃というから、一九八九年頃のこと。

ある男性の知り合いの娘が幼稚園の帰りにミヤザキがこちらを見ていた、風呂場のお湯の中にミヤザキがいた、といった話をしていたという。これはどうも大人から間接的に入って来た情報を曲^{きょ}解^{かい}したらしく、「ミヤザキ」というと「角の生えた鬼のようなもの」と思っていたようだ。ある晩、その男性が知り合いと遅くまで話し込んでいると、知り合いの娘が泣き出したため、様子を見に行くと、「^{たんす}箆^{せん}の引き出しが少しだけ開いて、ミヤザキが見ていた」と答え

たという。

子どもが見る空想上の存在

子どもにしか見えないお化けの話はよくあり、ジブリ映画の名作『となりのトトロ』などでもそういった設定が描かれている。また、体験談として子どもの頃は幽霊が見えた、という話がよく聞かれるし、自分の子どもが幽霊やお化けを見ていると話す、という親側の話も頻繁に聞く。

心理学では子どもが空想の中で生み出し、本人の中では実在するものとして扱われる存在をイマジナリーフレンド、もしくはイマジナリーコンパニオンと呼ぶ。これは他人には見えないものの、その子どもにとっては対話できたり、ともに遊んだりすることが可能な実在する存在として認識

される。イマジナリーフレンドは多くの場合成長とともに自然消滅するという。

このように人間は幼少時に他の人間には見えない存在がいる、と考える事例が多い。

そのため、ささろさんやミヤザキも子どもが生み出した空想の存在とも考えられる。しかし、先に挙げた『となりのトトロ』のように大人には見えないが、複数の子どもに同時に目撃されるお化けの事例もある。

佐々木喜善著『奥州のザシキワラシの話』や柳田國男著『妖怪談義』には岩手県上閉伊郡土淵村（現遠野市）の尋常高等小学校に座敷わらしが出たが、これは一年生の小さな子どもたちには見え、それ以上の年齢の人間の目には映らなかったという。

鮫島事件

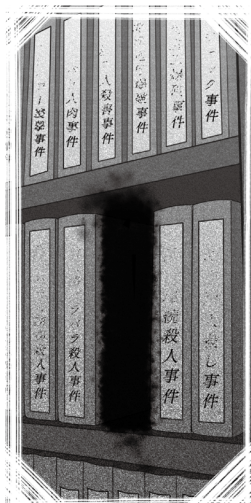
封印された事件

タブー視される謎の事件

二〇〇一年五月二四日、大型電子掲示板2ちゃんねるのラウンジ板に「伝説の『鮫島スレ』さめじまについて語ろう」というスレッドが立てられた。

このスレッドは、こんな言葉から始まった。

「ここはラウンジでは半ば伝説となった『鮫島スレ』について語るスレッドです。知らない方も多いと思いますが、2ちゃんねる歴が長い方は覚えてる人も多いと思います。かくいう俺も『鮫島スレ』を見てから2ちゃんねるにはまったひとりでして、あれを見たときのショックは今でも覚えています。誰かあのスレ保存してる人いますか？」



そしてこのスレッドでは「あのスレの事はタブー」「この話はしちや駄目なんだよ。みんな知っても知らないフリしてる」「もう一度、ここから死者を出すつもりですか」「本当に、もうやめたほうがいい」といった、事件をタブー視する書き込みがいくつもなされたものの、具体的な事件の内容はおろか、「鮫島」が人名なのか地名なのか、といったことについても人によって話すことがばらばらで、結局分からずじまいという状態になった。その後2ちゃんねる及び5ちゃんねるだけでなく、インターネット上の様々な場所で鮫島事件のことが語られているが、内容は不明の

ま、ただあまりにも恐ろしい事件があった、とだけ語られている。

虚構の事件

という話だが、鮫島事件などという事件は現実には存在していない。前に挙げたスレッドにてあたかも過去に鮫島事件と呼ばれる事件が発生したかのようなことが書かれ、そのノリに追随した人々がやはりあたかもそんな事件があったかのような反応を見せ、それが広まって行った。そのため誕生から二〇年経った現在でも鮫島事件がどのような事件であったかは明確な答えがない。

類似した怪談

このような話はネット時代よりも前に存在している。有名なものは「牛の首」と呼ばれる怪談で、これとはかく恐ろしいという形骸だけが伝わっており、その

内容を知る者はいないと語られる。また余りの恐ろしさで聞いた人間が数日で死んでしまうため、内容が伝わっていないとされる場合もある。

他にも大正時代には伝わっていたという話に「田中河内介の最期」というものがある。これは幕末の実在の人物である田中河内介という人物の、謎に包まれた最期に何があったのかということを語る内容とされるが、この話をするときよくないことが起きるとされ、実際に話そうとした人物が死んでしまったことから、話の内容が伝わっていない、と語られる。

このように異常に恐ろしい話とされるが、内容は誰も知らないという怪談は古くからある。鮫島事件はネットを舞台に、不特定多数の人々によって生まれ、成長した、そんな怪談のひとつなのだろう。

くねくね

分らないほうがいい

くねくねと動く白い男

二〇〇一年七月七日、2ちゃんねるオカルト板に立てられた「死ぬ程洒落にならない怖い話を集めてみない? 6」スレッドにこんな話が転載された。

ある少年が兄とともに母方の実家に遊びに行った時のこと。その日、外は晴れていたのにもかかわらず、兄弟は家の外で遊ぶ気がせず、家で遊んでいた。

その時、ふと兄が立ち上がり、窓の向こうを見た。そこで少年も彼の視線を追ってみると、真っ白な服を着た人間が見えた。

何をしているのかと見続けていると、白い服を着た人が

くねくねと動き始め、次第に人間の関節ではありえない、不自然な方向に体を曲げ始めた。

少年は兄にあれば何をしているのかと聞いたが、兄も分からないと答えた。しかしその直後、兄はそれが何だか理解した。少年は兄に教えてくれるように頼んだが、兄は「分かった。でも、分からないほうがいい」としか言わなかった。

その後、兄は知的障害を患い、結局あの時何を理解したのかは不明だという。



海辺での出現

この話は元々WEBサイト「怪談投稿」にて二〇〇〇年三月五日に投稿された「分からないほうがいい・・」という体験談だった。

これが2ちゃんねるに転載された後、二〇〇三年三月六日に同じくオカルト板の「不可解な体験、謎な話〜enigma part14」スレッドにて類似した体験談が投稿される。それによれば少年時代、嵐で荒れ狂う海辺を全身真っ白の物体が両手を頭上で高速で動かし踊るような動きをしていたが、それをはつきりと見てしまった視力が良い少女が叫び声を上げておかしくなり、その後脳に後遺症を患ってしまったらしい、と語られている。

くねくねの誕生

そして二〇〇三年三月二九日、同じくオカルト板の「死ぬ程洒落にならない怖い話を集めてみない？31」スレッドにて、「分からないほうがいい・・」とそっくりな経験をしたという人物が、それと自分の体験を重ね合わせて交ぜ、詳しく書いたという話が投稿された。この話

ではお盆に秋田県の祖母の家を訪れた際、田んぼの向こうに人ぐらいの大きさの白い何かがかくねくと動いているのを見たという。そしてこの時、投稿者とともに白い物体を見ていた兄が、望遠鏡を覗いてそれを見た瞬間、様子がおかしくなり、「わからナイホウガイイ……」と兄とは違う声で言ったという。

そして兄はその後、狂ったように笑いながら、白い物体と同じようにくねくねと動くようになった。

こうなるともう元に戻らないため、何年かしたら田んぼに放してやるぐらいしかできることはないと言われている。

先述したようにこの話は「分からないほうがいい・・」の話を交ぜたと語られており、実際には怖い体験はしていないとされているため、創作だろうと思われる。しかしこの話をきっかけに「くねくね」という呼称が一般的になり、くねくねの正体を知るとくねくねと同じものになる、という性質が加えられ、くねくねの基本的な部分が完成したと考えられる。

ひきこさん

女は雨の日だけにやってくる



二一世紀の怪談

二〇〇一年七月二十四日、それはWEBサイト「Alpha-web いろいろ話」に書き込まれた。

ある雨の日、一人の小学生、Aが学校から帰る途中、大きな橋を渡っていたところ、子どもの死体を引き摺りながら横歩きで歩く女を見た。女は口と目が横に裂け、背が異常に高いという恐ろしい容貌ようぼうをしていたが、Aを見つけると、何かを叫びながら追いかけてきたため、Aは急いで逃げ帰った。

翌日、Aが放課後に友人のB、C、Dと遊んでいると、窓の向こうで雨が降り始めた。Aが窓の向こうを覗くと、

校庭から彼の方を見つめるあの女がいた。女はそのまま校舎に入ってきた。少年たちは各々逃げ、隠れるが、女は一晚中学校舎を歩き回っているようだった。

翌朝、女の気配がなくなり、Aの友人たちは隠れていた場所から出てきた。しかしAの姿はない。前夜、Cが目撃していたのだ。Aが雨の中あの女に引き摺られて行くのを。

私の顔は醜いか

同サイトではその翌々日の二六日、ひきこさんの過去が投稿された。それによればひきこさんは「森もり妃姫子」という少し背の高い普通の少女だったが、先生に

ひいきされたことなどを理由にいじめられるようになる。ある日、ひきこさんは手を縛られ、足を掴まれて学校中を引き摺られたことで傷だらけになり、それから登校を拒否するようになるが、今度はそれを知った両親に虐待を受けるようになった。それでも彼女は何年もの間部屋に引きこもり続け、恨みを忘れないためかのように傷が癒えそうになると自分の顔を傷つけ、その結果目と口が裂けてしまった。また満足に食事を与えられなかったが、彼女の背は異様に高く伸びた。

そしていつの日からか、雨が降ると妃姫子は外へ出て、付近の小学生を襲うようになり、ひきこさんという怪物になった。彼女は顔を見られることを嫌うため、皆が傘を指す雨の日だけに現れ、小学生を見つけるとその足を掴んで肉塊と化すまで引き摺り続ける。遭遇した際には「私の顔は醜いか」と尋ねてくるが、似た問いかけをする「口裂け女」と違ってこれに対する返答に正解はない。「ひっばる

ぞ！ ひっばるぞ！」と言うか、鏡を見せて彼女の嫌いな自分の顔を見せることで、撃退することができるのだ。

社会の間から生まれた怪異

小学生を追いかける話と過去の話が別々に投稿されていることから、「ひきこさん」という名前から「ひきこもり」という過去が後になって与えられた可能性が高い。また「私の顔は醜いか」という問いかけも一九七〇年代末に世間を騒がせた「口裂け女」の問いかけ「私きれい？」と対になる。

当時殺人事件と関連して報道され、社会問題として注目を集め始めていた「ひきこもり」が過去として設定されたことや「引き摺り殺す」というほかに類を見ない残酷な殺害方法、横歩きでの高速移動や、雨の日だけに現れる、などの彼女だけが持つ特徴がいくつもあった。それが彼女を唯一無二の存在にしているのだろう。

吉原千恵子

死者が綴るチェーンメール

流布したチェーンメール

二〇〇〇年代初頭、吉原千恵子とい

う四歳の頃に誘拐殺人犯によって殺害された少女の霊から送られてきた体裁のチェーンメールが流布した。

そのメールによると、「歩行者専用」を表す道路標識に描かれた手を繋ぐ親子のような姿は、実は自分を攫おうとしている誘拐犯を写真に撮ったものをモデルにしているのだという。

千恵子はその後、誘拐された子どもであつたことが明るみに出て、写真が公表された。これに焦った犯人により千恵子は殺害され、山に埋められたが、その場所に電波塔が

建てられた。

これにより電波を通してメールを送ることができるようになり、メールを経由して自分を殺した人物、もしくはその犯人が死んでいればその子や孫に復讐しようとする目論みでいる。

そのため、メールを受信した人間に五人以上に拡散するよう指示するが、もしそれに従わない場合は、千恵子の霊が受信した者の下に現れるという。

元になった都市伝説

犯人を特定するためという体裁のチェー



ンメールの代表例である「橘あゆみ」のメールが流布したのが二〇〇一年頃であるため、それ以降に生まれたものと考えられる。

チェーンメールに登場する幽霊は多いが、この吉原千恵子とくちよてきが特徴的なのは「歩行者専用の道路標識は実は父親と娘ではなく誘拐犯とその男に連れ去られる被害者を描いている」という都市伝説が元になっていることだ。

都市伝説の内容は以下のようなものだ。

あるカメラマンが仲睦まじい親子の写真を撮り、当時政府によって一般公募されていた標識デザインに送ったところ、採用される。

しかし、それからしばらく経ってその写真を撮ったカメラマンが新聞を読んでいると、あの写真に撮った親子の顔写真が紙面に載せられているのを見て、彼らが誘拐犯とその被害者だったことを知る、というものだ。これはテレビのニュースや雑誌で知る場合もある。

都市伝説の後日談として

そしてこの吉原千恵子のチェーンメールはその後日談という体裁で綴られており、誘拐後に少女が殺害されたため、怨霊おんりょうと化して犯人を捜しているという設定で作られている。

ちなみに先述した道路標識のデザインは一般公募されたものではなく、国際連合道路標識という国際的な統一規格を元にデザインされたものであり、日本以外の国でも類似したデザインが使用されている。

一方、ドイツでは「歩行者専用道路標識は誘拐犯を連想させる」という理由からデザインが変更されており、この話が元になって前述した都市伝説が生まれたのではないかという説がある。

ツナカユリコ

その名を使えば不幸が起きる

その名前を使っ^ふてはいけない

二〇〇二年頃からネット上で流布されているのが確認できる怪異に、「ツナカユリコ」というものがある。

これは、主人公の名前を自分で決められるテレビゲームでその名前を「ツナカユリコ」にすると、何かしらの不幸や不吉なことが起きるとされる話だ。

ネット上で語られる話を見ると、RPGの名前入力で「ツナカユリコ」の名前を使用すると原因不明の高熱が出る、「ユリコ」だけでも不吉なことが起こる、「ツナカユリコ」という名前をRPGの名前に利用した人物がアキレ

ス腱^{けん}を切断して、さらに熱を出して入院した、といったものがある。また現実の女性の話し声が聞こえてくる、謎の視線を感じる、というものもあるようだ。

遡^{さかの}る情報

二〇〇三年二月二〇日に発行されたトーキョウ・ルーマーズ撰『平成の都市伝説』という書籍には「RPGゲームの名前入力で『ツナカユリコ』を使うと原因不明の高熱で病院送りになる。『ユリコ』だけでも不吉なことが起こる」と記されており、ゲームのジャンルはRPGに限定されている。



この『平成の都市伝説』はその名の通り人々の間に伝わる都市伝説を集めた書籍であるため、怪談の発生自体はさ^{さか}らに遡る。電子掲示板2ちゃんねるのオカルト板に立てられたスレッド『ゲームにまつわる怖い話』では、二〇〇二年五月二日にRPGなどの名前を入力するゲームにおいて、ある少年が「ツナカユリコ」と名前を入れたところ、原因不明の高熱で病院送りになった、また「ユリコ」と入れただけでもよからぬことが起きる、という話が雑誌に掲載されていた、と記されている。

この雑誌の情報を追ってみると『コミックボンボン』（講談社が発行していた月刊児童漫画画雑誌）の怖い話特集に掲載されていたことが判明した。

平成初期からいたツナカユリコ

これは一九九三年九月号の「夏のスペシャル袋とじ特集 血もおる悪夢への扉」という特集に載せられたもので、それによれば「ツナカユリコ」という名前をつけるのではなく、ゲーム内のキャラクターの名前が勝手に「ツナカユリコ」もしくは「ユリコ」に変わり、そのゲームのプレイヤーに不幸が起きる、という話だったと記されている。これはゲームを買ってから三年経つと自然に発生することもあるという。

この他にも「ユリコ」が現れた数週間後、原因不明の高熱に襲われ入院したという、現在ネット上で流布する話もこの時点で語られていたことが分かる。

このように、「ツナカユリコ」は本来、九〇年代に子ども向けに掲載された怪談が、〇〇年代に入ってネット上で改めて広まった怪談なのではないかと考えられる。

おじやま道草

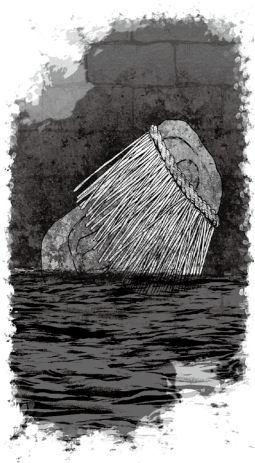
千年を超える怨念

一軒家に潜む怪異

二〇〇二年五月二六日、2ちゃんねるの「ほんのりと恐い話スレ、その5」スレッドに、「おじやま道草」と題された怪談が転載された。

舞台はある一軒家で、この家に越してきた男性が度々奇妙な現象に襲われた。それによれば、一階で寝るとうなされる、誰もいない一階から話し声が聞こえる、一階から二階に上がる足音が聞こえるが、誰もいない、猫が家に入ってきて来ると、玄関で何かに怯えたような様子を見せてわざわざ二階の窓から逃げ出す、といったものだった。

そこで靈感のある者がこの家に行ってみると、台所の四



方にある柱の上部に何か紙を剥がした跡があり、何かを封印していたことが分かった。そこでさらに調べると、この家には千数百年前から存在し続けている怨霊（おんりょう）がいることが分かった。この怨霊はある一族に取り憑き、この土地にやってくるという。

二重の怨念

この怨霊は一族を惨殺（ざんさつ）したが、その結果土地に縛（しば）られることになった。それが原因かは不明だが、ある時この家に住んでいた住人が、屋敷を増改築する際にその場所に祀（まつ）られていた道祖神（どうそじん）が邪魔になり、井戸に投げ込むと

いう行動に出た。

その結果、怨霊おんりように加えて神罰が下ることとなり、この土地は二重の強い力に縛られることになる。そのため土地に建てられた家に越してきた人間は無残な死を遂げるなど悲惨な境遇に遭い、さらにそれらの死者の霊がさまようことになった。

また、この怨霊は意識を向けただけで斬りかかって来る恐ろしい性質を持ち、周囲の霊を手下として使役しえきする能力を有するという。またこの怨霊と関わった人間は不可思議な夢を見るなどの怪現象に襲われ、話を讀んだだけでも周囲の浮遊霊を活発にさせてしまう。その際には「ギャーティ、ギャーティ、ハーラーギャーティ、ハラソーギャーティ、ボージーソワカー」という言葉を三回唱えるか、心の中で念じると良いという。

2ちゃんねるより前の出典

この怪談は元々「f-amex」というサイトの中の「怪談と霊の話」というページに掲載されていたことが確認できるが、「おじやま道草」のページは現在リンクが切れており、読むことができなくなっている。しかし2ちゃんねるにはこのサイトにあるものが転載されていることから、少なくとも二〇〇二年五月二六日より前、場合によっては九〇年代から怪談自体が存在している可能性がある。

「おじやま道草」というタイトルもこの「f-amex」の時点で使われているが、由来は全く不明である。怪談中にもこの言葉を連想させるような要素は出てこない。「ほんのりと恐い話スレ、その5」スレッド内では話の内容が分からないようにわざと無関係の名前をつけているのではないか、という考察がされているぐらいである。

もしかしたら怪談中に出てくる道祖神と何かしらの関係があるのかもしれないが、それも推測に過ぎない。今なお謎の多い怪異である。

009

怪人アンサー

その怪人に答えられぬ質問なし

どんな答えも知っている

二〇〇二年八月八日から二〇〇二年八月一五日頃にかけて、怪人アンサーなる存在を呼び出す方法が同時多発的に様々なWEBサイトに書き込まれた。

まず一〇人が集まり、携帯電話を一〇個用意して、一個目から二個目に、二個目から三個目に、そして最後に一個目から一個目に、輪になるように携帯を同時にかける。すると通常なら全てが通話中になるはずの携帯電話が、誰のものでもないどこかに繋がり、アンサーと名乗る人物が電話の向こうに現れる。

アンサーは一〇人中九人の質問にはそれが何であろうと

答えるが、一人にだけ逆に質問をする。そして質問に答えられない場合には液晶から腕が出てきてその人間の体の一部をもぎ取っていく。

アンサーと名乗る怪人は元々頭だけで生まれてきた形態異常な状態で、そうやって体のパーツを集めて完全な人間になろうとしているのだ。

怪人アンサー創世記

このアンサーの話は二〇〇二年一〇月三日に東京新聞WEB版に、二〇〇三年八月五日にテレビ朝日系列の番組「世界痛快伝説!! 運命のダダダダーン! Z」



における「あなたも呪われる！ 身の毛もよだつ本当に怖い話」にと次々と取り上げられ、全国的に有名になった。

しかし出現から約一年経った二〇〇三年九月、この怪談はある同一人物によって生み出され、広められたものであることが発覚する。WEBサイト「ディープ・ダンジョン」によれば、これは同じくWEBサイト「現代奇談」を運営していた松山ひろし氏が発見した。

その作者を名乗る「くねりずあいり」氏が自身のWEBサイト「予感（Presage）」にてその真相を語り、思いつきと言って良い想像によって生まれた怪人が噂が広まるにつれ変質していくことで本質が与えられたと記した。

変質するアンサー

誰でも書き込み、コピー&ペーストによって同じ内容の話が簡単に広まるというインターネットの特性上、創作され、広まった怪異は相当数いると思われる

が、二一世紀初頭に作者が特定された、という点で珍しい怪異といえる。

くねりずあいり氏は噂が広まるにつれて変質していくことで本質が与えられた、と記しているが、その変質はインターネットを離れても続いている。

例えば不思議な世界を考える会編『怪異百物語9』には一〇人が同じ電話番号を押すと一人にだけ電話がかかってきて、その電話を取ると体の一部を奪われて死ぬ、というアンサーの話が変化した話が載っているのだ。

携帯電話は現在スマートフォンにその役割を奪われているが、アンサーを呼び出す儀式はスマートフォンでも可能だ。恐らく、これからも何らかの形で、アンサーの怪談は語り継がれていくのだろう。

カン、カン

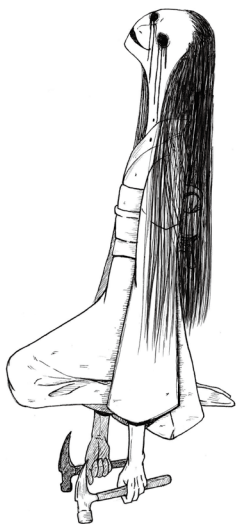
家族を壊す呪い

幾度も現れる謎の女

二〇〇二年八月二一日、2ちゃんねるのオカルト板に立てられた「死ぬ程洒落にならない怖い話を集めてみない? 17」スレッドにて、ある女性が遭遇した怪異についての話が語られた。

報告者の女性が小学生の頃、夜にアパートの居間からカン、カンという音が聞こえてきたことがあった。女性が姉とともにそれを見に行くと、テーブルの上で正座したままピクリとも動かない、白い着物を着た、黒髪を腰まで伸ばした女が背を向けて座っていた。

女性は悲鳴を上げて母親を呼びに行ったが、その時には



既に女の姿は消えていた。

数年が過ぎ、女性が中学三年生になった頃のこと。再びカン、カンという声を聞いた女性は恐る恐る居間を覗いた。するとやはりあの白い着物の女がおり、思わず女性は声を出してしまった。

振り返った女の両目には、ちょうど眼孔に収まる大きさの鉄釘が刺さっており、両手には鈍器のようなものが握られていた。

そして女は口だけで笑い、言った。

「あなたも……あなたたち家族もお終いね。ふふふ」

異変は翌日から起きた。学校から帰ってきた女性が誰もいないはずの家の中で、居間の方から響くカン、カンという音を聞いたのだ。

女性は急いで家を出て、少し時間が経ってから公衆電話で家に電話をかけた。

電話の向こうで母親の声がし、ほっとしたが、電話がある居間にいるのは母親ではなく、あの女なのではないかと気が付いた。

そして「あなたは、誰なの？」と尋ねると、間を置いて「あなたのお母さんよ。ふふふ」と聞こえた。

八年後の後日談 この話の後日談は、八年後の二〇一〇年一

月四日、「死ぬ程洒落にならない怖い話を集めてみない？ 234」スレッドにて語られた。

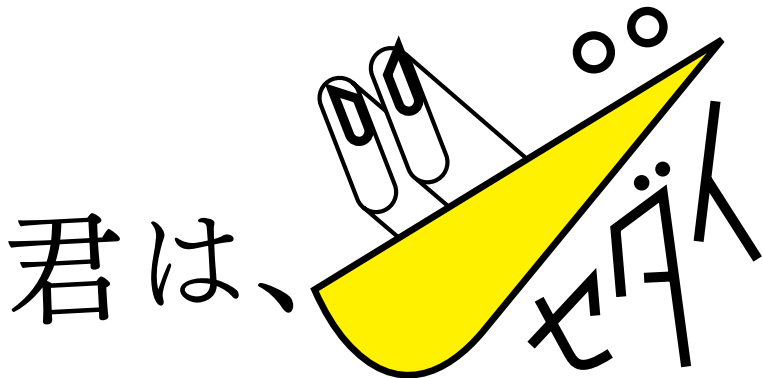
女性はあれから大学進学を機に家を出たが、まだアパートには妹と母親が住んでいるという。女性は家に帰ることを拒んでいたが、減多に帰ってこない姉と単身赴任中の父が帰ってくると聞き、渋々帰ることになった。

しかし帰省して分かったのは、一人暮らしをしている姉の家であのカン、カンという音が聞こえたこと、そして母親が夜な夜な家から少し離れた電柱の周りを駆け足で、般若のような形相で回り続けるという奇行を繰り返しているということだった。

その母親の奇行を目撃した夜、実家に戻った彼女は、またあのカン、カンという音を聞くことになる。そしてテールに座るあの白い着物の女の後ろ姿を見た直後、何者かに肩を掴まれ、気を失った。

女性は翌日目を覚ましたが、その後も母親の異常行動は続いているという。

釘を打つ呪い 釘を使った呪いは、丑の刻参りなどに見られるように神社の神木などに人形を釘で打つ、というものが知られているが、この怪異の場合、自身の目に打ち込むという人間ではありえない方法で行われている。もしかしたら人形どころか人型の自分自身を媒介にして呪いをかけているのかもしれないが、そうだとしたら非常に恐ろしい。



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!